

# 2021年3月期 連結決算

～2022年3月期計画と中期経営計画について～

代表取締役社長 池見 賢

2021年5月27日



# 2022年3月期計画

# 1. 2022年3月期計画

単位：億円

	2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減	増減率
売上高（収益認識適用後）	8,200	8,097	103	101%
営業利益	200	162	38	123%
経常利益	210	181	29	116%
当期純利益 （親会社株主帰属）	140	58	82	241%

\* 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、上記の売上高は当該会計基準等を適用した後の数値として記載（2022年3月期売上高は、従来の会計基準より550億円の減額となっています）

\* 売上高（収益認識適用後）の2021年3月期実績は概算値

## 2. 2022年3月期セグメント・ユニット別計画

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高（収益認識適用後）			営業利益		
		2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減	2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減
水産資源	漁業	290	303	△ 13	11	7	4
	養殖	133	127	6	△ 14	△ 23	9
	水産商事	1,478	1,471	7	32	30	2
	荷受	1,744	1,684	60	5	△ 2	7
	海外	1,346	1,398	△ 52	49	36	13
水産資源セグメント小計		4,991	4,983	8	83	47	36
加工	家庭用冷凍食品	506	512	△ 6	19	21	△ 2
	家庭用加工食品	358	337	21	24	25	△ 1
	業務用食品	1,190	1,109	81	22	10	12
	畜産	688	690	△ 2	10	2	8
	化成	180	175	5	19	18	1
加工セグメント小計		2,922	2,822	100	94	75	19
物流	物流	165	156	9	18	21	△ 3
その他		122	135	△ 13	5	12	△ 7
全社		0	0	0	0	6	△ 6
合計		8,200	8,097	103	200	162	38

\* 売上高(収益認識適用後)の2021年3月期実績は概算値

### 3.セグメント、ユニットの改編(2021年4月1日～)

- ・ 漁業・養殖セグメント、商事セグメント、海外セグメントを統合し、『水産資源セグメント』とする
- ・ 漁業・養殖ユニットを分割し、『漁業ユニット』『養殖ユニット』とする
- ・ 北米・欧州ユニットとアジア・オセアニアユニットを統合し、『海外ユニット』とする
- ・ 畜産商事ユニットを加工セグメントへ移管し、『畜産ユニット』に名称を変更する

## 4. 2022年3月期セグメント別計画(水産資源・漁業)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減	2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減
水産資源	漁業	290	303	△ 13	11	7	4
	養殖	133	127	6	△ 14	△ 23	9
	水産商事	1,478	1,471	7	32	30	2
	荷受	1,744	1,684	60	5	△ 2	7
	海外	1,346	1,398	△ 52	49	36	13
水産資源セグメント小計		4,991	4,983	8	83	47	36

### < 漁業ユニット >

- ・ 海外まき網漁業の改善に向けて、不採算漁船の減船や、経費の削減、漁獲物の加工販売の拡大を図る
- ・ メロの市況下落への対応として、新興市場の開拓、製品の加工度向上により、販売マーケットの多角化を図る

## 4. 2022年3月期セグメント別計画(水産資源・養殖)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減	2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減
水産資源	漁業	290	303	△ 13	11	7	4
	養殖	133	127	6	△ 14	△ 23	9
	水産商事	1,478	1,471	7	32	30	2
	荷受	1,744	1,684	60	5	△ 2	7
	海外	1,346	1,398	△ 52	49	36	13
水産資源セグメント小計		4,991	4,983	8	83	47	36

### <養殖ユニット>

- ・ 養殖魚の販売価格の回復のため、グループの総力を活かした販売体制の基盤構築を図る
- ・ 完全養殖クロマグロの収支改善に向けて、各養殖場の生産性の向上と、水産研究教育機構との共同研究を通じて、育種などの新たな技術開発に取り組むことにより、コスト低減を図る

## 4. 2022年3月期セグメント別計画（水産資源・水産商事）

（単位：億円）

セグメント	ユニット	売上高（収益認識適用後）			営業利益		
		2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減	2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減
水産資源	漁業	290	303	△ 13	11	7	4
	養殖	133	127	6	△ 14	△ 23	9
	水産商事	1,478	1,471	7	32	30	2
	荷受	1,744	1,684	60	5	△ 2	7
	海外	1,346	1,398	△ 52	49	36	13
水産資源セグメント小計		4,991	4,983	8	83	47	36

### <水産商事ユニット>

- ・ 圧倒的な調達力を背景とした差別化が必要不可欠
- ・ 業務用食品の支社販売機能との協業、グループ内の荷受や養殖関連部署との新たな仕組みづくりに注力
- ・ 水産加工品の量販店への販路拡大、国内外での加工拠点の整備に取り組む

## 4. 2022年3月期セグメント別計画(水産資源・荷受)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減	2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減
水産資源	漁業	290	303	△ 13	11	7	4
	養殖	133	127	6	△ 14	△ 23	9
	水産商事	1,478	1,471	7	32	30	2
	荷受	1,744	1,684	60	5	△ 2	7
	海外	1,346	1,398	△ 52	49	36	13
水産資源セグメント小計		4,991	4,983	8	83	47	36

### <荷受ユニット>

- ・ 柔軟な集荷、販売体制の構築により、量販店チャネルに対する取り組みを強化
- ・ 加工機能を強化し、生鮮流通システムの構築に注力(水産商事ユニットとの協業)

## 4. 2022年3月期セグメント別計画(水産資源・海外)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減	2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減
水産資源	漁業	290	303	△ 13	11	7	4
	養殖	133	127	6	△ 14	△ 23	9
	水産商事	1,478	1,471	7	32	30	2
	荷受	1,744	1,684	60	5	△ 2	7
	海外	1,346	1,398	△ 52	49	36	13
水産資源セグメント小計		4,991	4,983	8	83	47	36

### <海外ユニット>

- ・ 北米事業では、ピーターパンシーフーズの鮭鱒事業撤退により赤字解消。スケソウダラ、カニなどの工場の省力化を進め、生産性向上に注力
- ・ 欧州販売事業では、スペインの販売会社への資本参加により、欧州での販売ネットワークを拡大。今後は、南欧や東欧での販売体制を強化
- ・ アジア事業では、タイのペットフード事業について、マーケティング機能を強化し、中国等、新興市場への販売促進を図る
- ・ ベトナムにおいて、食品加工会社に資本参加。海外における食品加工、販売事業の取り組みにも着手

## 4. 2022年3月期セグメント別計画(加工)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減	2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減
加工	家庭用冷凍食品	506	512	△ 6	19	21	△ 2
	家庭用加工食品	358	337	21	24	25	△ 1
	業務用食品	1,190	1,109	81	22	10	12
	畜産	688	690	△ 2	10	2	8
	化成	180	175	5	19	18	1
加工セグメント小計		2,922	2,822	100	94	75	19

- ・ 業務用食品ユニットは一定の回復を見込む
- ・ 家庭用冷凍食品や加工食品の巣ごもり需要は一巡
- ・ 中長期的な課題として、利益率の向上に取り組む
- ・ アフター・コロナを見据え、効率的な製造・販売体制の整備を図る
- ・ 畜産ユニットは豚肉が採算改善
- ・ 化成ユニットは着実に成長

## 4. 2022年3月期セグメント別計画(物流)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減	2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	増減
物流	物流	165	156	9	18	21	△ 3

- ・ 新型コロナウイルスの影響に伴う荷動きの動向を注視しつつ、保管需要の取りこみを図る
- ・ 輸配送や通関を含めた一貫物流サービスの提供により、収益拡大を目指す
- ・ 計画的な設備投資を継続し、物流センターのスクラップ アンド ビルドに取り組む

# 中期経営計画 Innovation toward 2021と 次期中期経営計画について

## 5. 2022年3月期計画と中期経営計画(ユニット別)

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売 上 高			営 業 利 益		
		2022年3月期 計画 (収益認識適用前)	中期経営計画 最終年度 (2022年3月期) 目標値	差異	2022年3月期 計画	中期経営計画 最終年度 (2022年3月期) 目標値	差異
水産資源	漁業	313	424	△ 111	11	51	△ 40
	養殖	133	143	△ 10	△ 14	16	△ 30
	水産商事	1,525	1,579	△ 54	32	48	△ 16
	荷受	2,164	2,418	△ 254	5	8	△ 3
	海外	1,355	1,650	△ 295	49	74	△ 25
水産資源セグメント小計		5,490	6,214	△ 724	83	197	△ 114
加工	家庭用冷凍食品	542	659	△ 117	19	14	5
	家庭用加工食品	369	463	△ 94	24	14	10
	業務用食品	1,199	1,354	△ 155	22	31	△ 9
	畜産	690	791	△ 101	10	17	△ 7
	化成	180	201	△ 21	19	17	2
加工セグメント小計		2,979	3,467	△ 488	94	92	2
物流	物流	165	176	△ 11	18	18	0
その他		124	143	△ 19	5	4	1
全社		0	0	0	0	0	0
合計		8,759	10,000	△ 1,241	200	310	△ 110

## 6. 中期経営計画進捗状況

- ・ 売上高、営業利益ともに、中期経営計画の目標値には未達
- ・ 構造的課題は、①海外まき網漁業の採算悪化、②養殖の市況低迷と高コスト構造、③荷受事業の市況低迷と構造改革の遅れ、④北米のピーターパンシーフーズの収益悪化
- ・ ピーターパンシーフーズは、事業譲渡により、すでに撤退。課題として解消済み
- ・ 残る課題についても解決策実行中
- ・ 足元の課題解決と今年度計画の着実な達成、次期中期経営計画策定に取り組む

**Thank You**



# MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他本書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。